

飼料イネ「たちすずか」WCSの給与技術支援



～ TMRセンターの活用により「たちすずか」利用拡大へ ～

連携機関 | 独立行政法人農研機構 近畿中国四国農業研究センター

研究期間 | 平成21～24年度[競争的資金研究注]

注) (独)農研機構・近中四農研 交付金プロジェクト研究(平成21, 22年度), 現地実証等事業(平成23, 24年度)

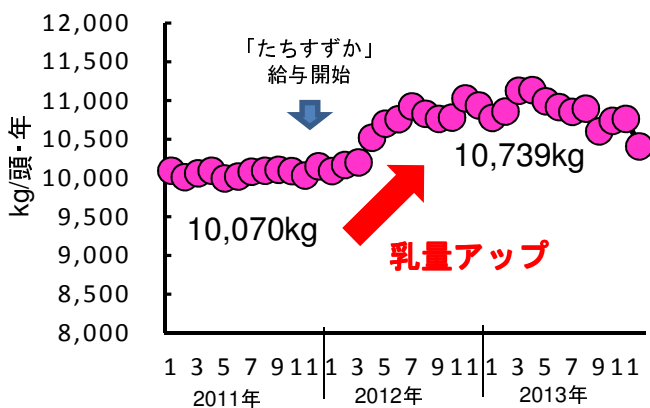
技術支援のきっかけ

- ◆ 飼料イネは、転作田を活用した耕畜連携の取り組みにより全国的に栽培面積が拡大しています。しかし、茎葉の消化が悪い、栄養豊富な籾の多くが不消化で排泄されるなどの課題があったため、(独)農研機構近畿中国四国農業研究センターが籾の極端に少ない新品種「たちすずか」を育成しました。
- ◆ 畜産技術センターは、近畿中国四国農業研究センターとの共同研究で「たちすずか」が従来普及品種に比べて栄養価が格段に優れていることを明らかにし、乳牛の乳量改善効果も確認しました。そこで、「たちすずか」を県内酪農家へ導入することにしました。

技術支援の成果

- ◆ 酪農家で「たちすずか」WCS(ホールクロップサイレージ:茎葉, 子実を使用した発酵飼料)を用いたTMR(混合飼料)の給与実証を行い、乳生産、繁殖成績が改善することを確認しました。
- ◆ 飼料価格の高騰が続く中、「たちすずか」WCSの利用により、飼料費を低減することができました。

■ 年間平均乳量がアップ



■ 繁殖成績

	給与前	給与後
受胎率(%)	29.6	32.6

受胎率が向上

■ 乳量あたり飼料費

	購入乾草を給与	たちすずかWCSを給与
飼料費/乳量 (円/kg)	37.4	32.9

飼料費低減

技術支援の活用場面

- ◆ 県内の飼料供給拠点である広島県酪農業協同組合TMRセンター(牛の給食センター)は「たちすずか」WCSを利用したTMRの製造販売を平成26年4月から開始し、農家で利用されています。
- ◆ 子牛や肉用牛への給与にも応用できます。